

# 木のよう



冬の間、木は葉を落とし、枝ははだかになります。まるで、眠っているかのようです。木は寒い季節の嵐を生きぬくために、冬眠しているのです。

木の生命そのものである樹液は、寒い冬の間、木を守るために、樹液がこおることのない、地下のずっと深くの根の中にもぐってしまいます。



冬の嵐の間に、弱ったりくさったりした部分は落とされていきます。すると、健康な部分だけに樹液を送れるようになって、木はじょうぶでいられます。古くなってくちてしまった枝々が吹き飛ばされるので、新しい枝が生える余地もできます。

春が来て、気温が上がり地面も暖かくなってくると、樹液は地下深くの根からまた上がってくるようになります。





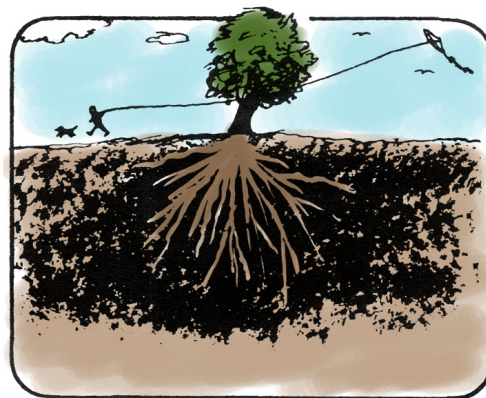
暖かくなると、樹液が木全体に流れやすくなり、再び枝に命をもらいます。まるで死んだように見える切り株からさえ、芽が出たりするのです。

樹液は、新せんな  
空気と日光の当たる  
所に新しい葉や花を  
付けさせます。すると、  
さらに多くの葉や  
花や実や枝が育ち、  
木を美しくして  
くれます。そして、次の  
しゅうかくにそなえて、  
もっと多くの実が  
できるようにして  
くれるのです。



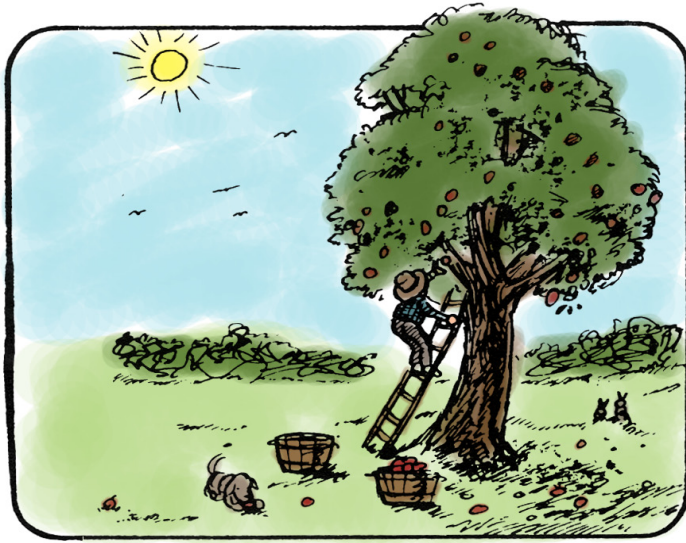
木の中には、ハチが花の受粉をするものもあります。それによって、木が実を結ぶのを助けるのです。

木は、養分の多い、良い地面に  
植えられていなければなりません。  
地中深くまでのびた根が、十分な水と、  
土の栄養分をすい上げるためです。



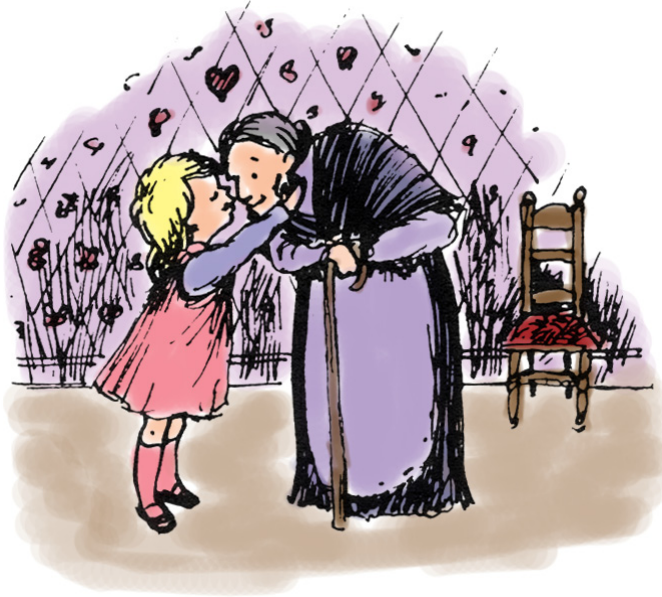
地中の根はあらゆる方向にのびて  
います。時には、水や栄養分を求めて、  
非常に広く、深くまでのびることも  
あります。

イエス様は弟子たちに、  
 自分が木で、彼を  
 信じる人たちは  
 枝みたいなものであると  
 言いました。<sup>1</sup> 神様の  
 み言葉とみ霊が流れると、  
 わたしたちは強くなり、  
 実を結ぶことができる  
 ようになります。



<sup>1</sup> ヨハネによる福音書 15:1-8を 読んでね。

神様の愛とみ霊の  
 お手本になる暮らし方を  
 すると、わたしたちは  
 毎日の生活で実を結ぶ  
 ようになります。親切で  
 おしめない行いは、神様の  
 よきことを反映します。  
 もっとイエス様のように  
 なれるように、神様の  
 み言葉の光にみちびいて  
 もらっているからです。



わたしたちがどんなに小さくても、神様のみ霊はわたしたちの一部と  
 なって、わたしたちが毎日のくらしで実を結び、周りの人たちへの祝福に  
 なるのを助けることができます。神様のみに言葉を讀んだり、イエス様の  
 ことをおぼえたりしながらイエス様と時間を過ごす、わたしたちの心は  
 強く成長します。



わたしたちは、じょうぶで健康に成長する木のようになることができます。  
 神様の愛とみ霊に、わたしたちの一部になってもらうなら、わたしたちの  
 くらし方は、神様や周りの人たちに喜んでもらえるものになります。

「悪しき者のはかりごとに歩まず、罪びとの道に立たず、あざける者の座にすわらぬ人はさいわいである。このような人は  
 主のおきてを喜び、昼も夜もそのおきてを思う。このような人は流れのほとりに植えられた木の時が来ると実を結び、  
 その葉もしほまないように、そのなすところはみな栄える。」(口語訳聖書、詩篇 1:1-3)